



小規模小学校における 効果的な体育学習のあり方 —組み合わせ単元の実践をとおして—

こども教育学科 高田佳孝



文部科学省(2018)「学校基本調査」において、児童数が7名以下の特別支援学級を含まない学級が、全国の公立小学校には4000程度存在する



相互交流の相手が限定されるので、生活経験や学習経験が豊かにならず発展性に乏しい傾向をもつ



妥協的になりやすく厳しい態度や活発な討議が展開しない



互いに意見を出し合いながら思考を深めたり、教え合いながら知識や技能を習得したりする協働的な学習が実施しにくい状況

小学校児童の調査結果（令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」）

表1. 実技に関する調査結果

(1) 各種目の平均値と体力合計点の経年変化

○女子

※最高値はピンク、最低値はブルーで網掛けしている

※50m走は、値が小さいほど記録が優れている

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20mシ ャトルラン (回)	50m 走 (秒)	立ち 幅跳び (cm)	ソフトボ ール投げ (m)	体力 合計点 (点)
令和元年度	16.09	18.95	37.62	40.14	40.80	9.63	145.70	13.59	55.5
平成30年度	16.14	18.96	37.63	40.32	41.89	9.60	145.97	13.76	55.9
平成29年度	16.12	18.80	37.44	40.06	41.62	9.60	145.49	13.93	55.7
平成28年度	16.13	18.60	37.22	40.06	41.29	9.61	145.34	13.87	55.5
平成27年度	16.05	18.41	37.45	39.56	40.70	9.62	144.80	13.76	55.1
平成26年度	16.09	18.26	37.22	39.37	40.30	9.63	144.79	13.89	55.0
平成25年度	16.14	18.06	36.89	39.07	39.67	9.64	144.59	13.92	54.7
平成24年度	16.23	17.09	36.70	39.24	39.95	9.63	144.94	14.21	54.8
平成22年度	16.37	17.75	36.79	39.18	39.68	9.65	145.28	14.55	54.9
平成21年度	16.34	17.65	36.64	38.49	38.74	9.64	145.14	14.61	54.6
平成20年度	16.45	17.63	36.64	38.77	38.72	9.64	145.77	14.85	54.8

小学校児童の調査結果（令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」）

表1. 実技に関する調査結果

(2) 各種目の平均値と体力合計点の経年変化

○男子

※最高値はピンク、最低値はブルーで網掛けしている

※50m走は、値が小さいほど記録が優れている

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20mシ ャトルラン (回)	50 m 走 (秒)	立ち 幅跳び (cm)	ソフトボ ール投げ (m)	体力 合計点 (点)
令和元年度	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.47	21.60	53.61
平成30年度	16.54	19.94	33.31	42.10	52.15	9.37	152.26	22.14	54.21
平成29年度	16.51	19.92	33.16	41.95	52.23	9.37	151.73	22.52	54.16
平成28年度	16.47	19.67	32.88	41.97	51.88	9.38	151.42	22.41	53.93
平成27年度	16.45	19.58	33.05	41.60	51.64	9.37	151.27	22.51	53.81
平成26年度	16.55	19.56	32.87	41.61	51.67	9.38	151.71	22.89	53.91
平成25年度	16.64	19.54	32.73	41.42	51.40	9.38	152.09	23.18	53.87
平成24年度	16.71	19.44	32.59	41.59	51.60	9.36	152.36	23.77	54.07
平成22年度	16.91	19.28	32.58	41.47	51.28	9.38	153.45	25.23	54.36
平成21年度	16.96	19.28	32.55	40.81	50.06	9.37	153.66	25.41	54.19
平成20年度	17.01	19.12	32.68	40.99	49.39	9.39	153.96	25.39	54.19



集団スポーツにおけるチーム編成がしにくい



ボールゲーム・リレーの指導が困難である



同学年の児童の中で体力・能力の差が大きく、運動嫌いな児童に意欲の低下が見られる



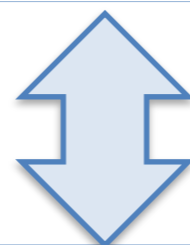
技能差が大きく指導が焦点化しにくい



作戦を考えたり、互いの運動を見て教え合ったりすることの多い
体育授業では、他教科に比べ、課題が多く見られる

広く場を使って運動できることや、待ち時間もなく、その運動に取り組めることは、メリット

教師が指導する際、個々の児童にまで目が行き届くことも長所



回数を競う内容や繰り返し同じ動きをおこなう運動については、休む間もなく活動することとなり、体力の限界を早くむかえる

同じ動きを繰り返したりすることにより、取り組む意欲が半減する場合も多く見受けられる



基本的な技能の習得に時間を要する領域については、「**組み合わせ单元**」という授業スタイルが適切である

研究の背景

「組み合わせ单元」とは

1時間(小学校は45分)に2つ以上の教材を組み合わせる授業スタイル
ねらい…運動の頻度と期間を保証することで、子どもの運動感覚、運動技能
が身につけやすくなる

小学校期の子どもは、神経系の配線を多用に形成するため、短い時間で高い集中力を発揮し、常に新しいものに興味が移っていくという特徴をもっている。従って組み合わせ单元はこの時期の発達段階にも見合っている。

(筑波大学附属小学校体育研究部、2017)

図1. 組み合わせ单元例

単独单元の授業時間数

1	2	3	4	5
40分×5回				

組み合わせ单元の授業時間数

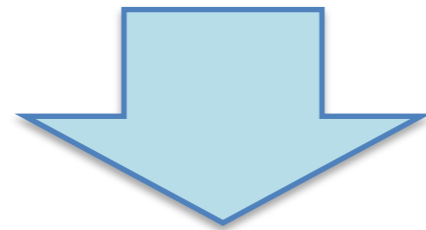
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
20分×10回									
他教材(20分)									

単独单元5時間計画の教材は、組み合わせ单元のスタイルだと、授業10回分となる。授業の期間を長く、回数を多くすることで定着を図る。

- ◇高瀬ら(2014、2015)ベースボール型、ネット型、ゴール型の体育授業の事例研究
- ◇清水ら(2015)体づくり運動の内容・方法の検討
- ◇高瀬ら(2018)ベースボール型授業の教材開発事例
- ◇黒原ら(2019)単元構造図による授業検討

※ボール運動(ゲーム)領域や体づくり運動の実践が中心
→他の運動領域や他領域の教材開発までは、至っていない

本研究では、小規模小学校の高学年少人数数学級を対象とし、組み合わせ単元を導入した授業実践をおこない、その有効性について検討する



〈組み合わせ単元〉

①器械運動
「マット運動」

②体の動きを高める運動
「持久走」「短縄跳び」

【研究期間と対象児童】

期間：2021年11月中旬旬～12月初旬

対象：滋賀県A小学校 5・6年生 10名
(5年生5名、6年生5名)

【単元及び教材について】

組み合わせ単元

→ 器械運動(マット運動)6時間

→ 持久走2時間、短縄跳び2時間

- 他教科との違い、どちらの教材も、主教材と捉え構成
- 両教材とも 基礎感覚づくりと、高次の技能習得を狙う
教材

表2. 組み合わせ単元計画(全10時間)

全 10H	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3分	①準備運動・予備運動(体の動きを高める運動含む)									
15分	②体の動きを高める運動									
	持久走					短縄跳び				
25分	③マット運動									
	基本的な技の習得				各自の課題への挑戦				発表会	
2分	④まとめ・振り返り(カード記入)									

表3. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
持久走・短縄	<ul style="list-style-type: none"> ・巧みな動きや動きを持続する能力を高めるための運動の行い方を知っている。 ・巧みな動きや動きを持続する能力を高めるための運動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の状態や体力に応じて、運動のおこない方を選んでいる。 ・自分や仲間の考えたことを友だちに伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動きを高める運動に、積極的に取り組もうとしている。 ・順番や約束を守り、助け合って運動をしようとしている。 ・場や用具の安全に気をつけている。
マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動の回転系や巧技系の基本的な技の行い方を知っている。 ・回転系や巧技系の基本的な技や発展技をおこなったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせを選んでいる。 ・友だちのよい動きを見つけたり、考えたりしたことを友だちに伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動に積極的に取り組もうとしている。 ・順番や約束を守り合って運動をしようとしている。 ・場や器械・器具の安全に気をつけている。

【分析方法】

- ・ビデオ撮影
 - ・児童と教師の逐語録
 - ・観察記録
 - ・学習カード
-
- ・児童の発言
 - ・言葉かけ
 - ・動きの変容
 - ・評価規準

1.2時間目の授業から

【マット運動】

- ・既習内容を振り返る→現時点で、できる技の確認
⇒個人によって技能差
- ・回転系、巧技系の基本的な技
⇒友だちにアドバイスをする、お互いの技について観察する

【持久走】

- ・折り返し走→子どもたちの自身での距離設定
⇒短い距離設定により目標達成

3.4時間目の授業から

【マット運動】

- ・回転系、巧技系の基本的な技の習得
 - ⇒タブレットの活用、アドバイス
 - ⇒短時間で集中、技の習得にも集中力が途切れなかった

【持久走】

- ・20秒間走
 - ⇒走る距離、スピード 増
 - ⇒励まし合い

5.6時間目の授業から

【マット運動】

- ・技の精度を高める、できる技の種類を増やす
- ・後転、開脚前転、伸膝前転、伸膝後転、倒立、倒立前転
三点倒立、側方倒立回転、とび前転などの技の習得
⇒技の獲得、技のコツを共有、アドバイス

【持久走】

- ・ペア学習→集団
⇒スピードを意識

【短縄跳び】

- ・跳べる技の確認
⇒技能差

7~10時間目の授業から

【マット運動】

- ・発表会における練習 → 集団マット (シンクロマット)
 - ⇒ 集団マットの内容、構成は子どもたちの話し合いで決定
 - ⇒ 技の組み合わせ、タイミングなど試行錯誤
- ・学習のまとめとして発表会

【短縄跳び】

- ・できる技に挑戦、跳べる回数を増やす
 - ⇒ 新しい技に挑戦する時間の保障、技の種類を増加

全10時間の授業をビデオ撮影し、その様子を単元の評価規準に基づいて観察・分析した結果、以下のような成果が確認された

〈知識・技能〉

基本的な技の習得に、授業時間数を増やすことで、**技の精度を高める**ことができた。また、**できる技の種類を増やす**場や、**発展技**に取り組む時間 も、十分に保障された。さらに、**集団マット**により、技を組み合わせたたり、友だちと励まし合ったりしながら繰り返しておこなうことができた

〈思考・判断・表現〉

技に丁寧に取り組むことができ、自分の**技の完成度**や**課題を明確**にすることができた。**タブレットの活用**や**友だちや授業者からのアドバイス**によって、課題解決に必要な場や手段を選択することができた。また、友だちの動きにも注目し、**お互いに伝え合う**場面が多く見られた。授業者が**意図的に設定した**、**話し合う場**が上手く機能していた

〈主体的に学習に取り組む態度〉

マット運動を苦手を感じる児童も、**周りの児童からの励まし**や、**先生との十分な関わり**があることで、**安心して取り組**めていた

〈今後の課題〉

- 運動時間の確保や運動の効果
→ 組み合わせる単元をどのように選ぶと効果的であるか
- より正確な評価のために、少人数であっても客観的な指標
- 他の学級や学校での授業成果の検証

オノマトペ…擬音語・擬態語を意味するフランス語
擬音語・擬態語…五感による感覚印象を言葉で表現する言語活動

運動・スポーツ領域で活用されている擬音語・擬態語
⇒スポーツオノマトペ

運動・スポーツ領域でオノマトペが使用される場合、運動の「ゴツ」を表現する際という言葉として使用されることが多い
動きのパワー, スピード, 持続性, タイミング, リズムを表現する言葉として使われている

【マット運動でのオノマトペ】

とび前転・・・ふわっと跳ぶ

倒立・・・ピンと伸ばす

後転・・・グツと押す

最後のポーズ・・・ピタッと止まる

技と技のつなぎ・・・クルッと向きを変える

- 1) 赤羽根直樹(2003)「小規模校での体育授業はどうあるべきか」体育科教育51(3).pp.14-17
- 2) 織奥信夫(1993)「小学校の小規模校における体育授業に関する研究-極小規模校の教科体育経営について-」体育・スポーツ経営学研究10(1).pp.57-72
- 3) 黒原貴仁・平谷まり(2019)「極小規模校における体育授業に関する一考察-複式学級によるゴール型授業を通して-」南九州地域科学研究35.pp.11-17
- 4) 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020)「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」東洋館出版社:東京
- 5) 清水将・清水茂幸・栗林徹・鎌田安久・澤村省逸・上濱龍也・浜上洋平(2015)「へき地・小規模校における子どもの体力と生活運動量の関係-体づくり運動を活性化させる教育活動の基礎的検討-」岩手大学研究紀要14.pp.191-199
- 6) 全国へき地教育研究連盟編(1999)「学習指導法の工夫・改善~へき地・小規模・複式学級を有する学級の実践的事例」:東京.p17
- 7) 高瀬淳也・小出高義(2015)「へき地小規模校の体育授業におけるネット型の事例研究」北海道教育大学研究紀要69.pp.25-30
- 8) 高瀬淳也・中島寿宏(2018)「極少人数学級における状況判断の向上を目指した授業実践-ベースボール型の授業から-」北海道体育学研究53.pp.27-37
- 9) 高瀬淳也・中島寿宏(2014)「へき地小規模小学校におけるICTを活用した体育授業の実践-交流の広がりを目指した授業事例から-」教育学研究25.pp.231-238
- 10) 高瀬淳也・中島寿宏(2015)「へき地小規模小学校におけるゴール型授業の事例研究-バスケットボールにおける状況判断とサポート行動に着目して-」北海道体育学研究50.pp.103-112
- 11) 高瀬淳也・森田憲輝・中島寿宏(2014)「へき地小規模小学校におけるベースボール型授業の事例研究」北海道体育学研究49.pp.13-19

- 12) 立木正(1992)「東京都区内の小規模学校における小学校体育の現状と課題」東京学芸大学紀要5部門44.pp.149-157
- 13) 筑波大学附属小学校体育研究部(2017)「1時間で2教材扱う『組み合わせ单元』でつくる筑波の体育授業」明治図書出版:東京
- 14) 村末勇介(2003)「人と人とのつながりを土台に、価値ある学びを」体育科教育51(3).pp.30-33
- 15) 文部科学省(2018)「平成29年度学校基本調査小学校収容人数別学級数」
http://www.e-start.go.jp/start-tclass1=000001110643&tclass2=000001110644&tclass3=000001110645&tclass4=000001110649&layout=datalist&second2=1&stat_infid=000031656677 (参照日2021年12月22日)